オーギュスタン・デュメイ（ヴァイオリン＆指揮）

Augustin Dumay, Violin & Conductor

各国の批評家たちはオーギュスタン・デュメイを20世紀の巨匠たちになぞらえ、「偉大な伝統の継承者」と評する。これは、ドイツ・グラモフォンでの傑出した録音の数々によって裏付けられている。マリア・ジョアン・ピリスとのベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全曲は「グリュミオー＆ハスキル、メニューイン＆ケンプ、パールマン＆アシュケナージに匹敵することは確か」（インターナショナル・ピアノ誌）、ブラームスのピアノ三重奏曲は「デュメイの演奏にはミルシテインの遺産が見事に継承されている」（グラモフォン誌）、カメラータ・ザルツブルクとのモーツァルトの協奏曲は「疑いもなく史上もっとも優れたモーツァルトのヴァイオリン協奏曲の録音である」（クラシックCD誌）であり「スターンやグリュミオーに比肩する類い稀なモーツァルト弾きであることがはっきりした」（クラシカ誌）と評された。

デュメイは、ヘルベルト・フォン・カラヤンに見出されてベルリン・フィルと共演、EMIで録音して（メンデルスゾーン、チャイコフスキー、サン＝サーンス、ラロの協奏曲）一躍注目を浴びた。その後も、世界の名だたるオーケストラと当代きっての指揮者のもとで共演を重ねている。これまでに、ベルリン・フィル、フランス国立管、日本フィル、イギリス室内管、ロンドン響、ロンドン・フィル、ロイヤル・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ロサンジェルス・フィル、モントリオール響、スイス・ロマンド管、マーラー・チェンバー・オーケストラ、バイエルン放送響ほかと演奏、指揮者ではサー・コリン・デイヴィス、クリストフ・フォン・ドホナーニ、小澤征爾、ゲンナジー・ロジェストヴェンスキー、ヴォルフガング・サヴァリッシュ、ダニエル・ハーディング、アルミン・ジョルダン、クルト・マズア、エリアフ・インバル、エマニュエル・クリヴィヌ、ラファエル・クーベリック、イーゴリ・マルケヴィチ、シャルル・デュトワ、イヴァン・フィッシャー、フランス・ブリュッヘン、ケント・ナガノ、クルト・ザンデルリンク、エフゲニー・スヴェトラーノフ、アラン・ギルバート、デニス・ラッセル・デイヴィス、アンドリュー・デイヴィス、ステファン・ドヌーヴ、エイヴィン・グルベルグ・イェンセン、ユッカ＝ペッカ・サラステ、ユーリ・テミルカーノフ、デイヴィッド・ジンマン、アラン・アルティノグル、ロビン・ティチアーティと共演している。

ここ10年ほどは、国際的ヴァイオリニストとして実績を重ねると共に指揮者としてもコンサート・録音の双方で活発に活動しており、イギリス室内管、ニュージャージー響、シンフォニア・ヴァルソヴィアなどに定期的に招かれている。2003年以来、ベルギーのワロニー王立室内管の音楽監督を務め、2011年には関西フィルの音楽監督に就任した。関西フィルは、2015年5月にデュメイの指揮のもと初のヨーロッパ・ツアーを行い、ドイツ（デュッセルドルフ・トーンハレおよびヴュルツブルク・モーツァルト音楽祭）、スイス（ピエール・ジアナダ財団美術館）、イタリア（ブレシア・ベルガモ国際ピアノ音楽祭）で演奏した。

2004年からは、ブリュッセルのエリーザベト王妃音楽学校のマスター・イン・レジデンスとして才能ある若いヴァイオリニストたちを指導、その多くが主要な国際コンクールで入賞している。

「カストラート」や「王は踊る」で知られる映画監督ジェラール・コルビオが、ドキュメンタリー映画「オーギュスタン・デュメイ－心の軌跡 Augustin Dumay, laisser une trace dans le coeur」を制作している。

録音はワーナー、ドイツ・グラモフォン、オニックスなどのレーベルから40タイトルほどがリリースされており、そのほとんどがグラモフォン賞、オーディオファイル・オーディション、ドイツ・シャルプラッテン批評家賞、フランスのグランプリ・デュ・ディスク、レコード・アカデミー賞などを受賞している。

オニックスでは、関西フィルと録音した2タイトルのほか、ピアノのルイ・ロルティとフランク／R. シュトラウスのソナタ（ストラド誌で「現代屈指のヴァイオリニスト」と評された）、ブラームスのソナタ（ガーディアン紙で「大切なディスク」と表された）を録音している。

最新のCDは2015年5月にリリースしたもので、ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲、交響曲第8番、ブラームスの弦楽六重奏曲第1番が収録され、ソリスト・指揮者・室内楽奏者というデュメイの3つの顔を披露している。2016年5月にモントリオール交響楽団と録音したバルトークの協奏曲第2番がリリースされた。